

沖縄21世紀ビジョン

第10回 「世界のウチナーンチュの日」の取り組みから考えるウチナーネットワークの可能性

1. 世界のウチナーンチュの日とは?

10月30日は「世界のウチナーンチュの日」。この日に私たちは何を感じることができるでしょうか。

世界で活躍する県系人に目を向けてみましょう。

現在、ハワイの国立天文台に勤務する嘉数悠子



世界のウチナーンチュの日祭典

さんは13歳の時、NASAが主催するスペースキャンプへの参加がきっかけとなり天文学者を目指しました。

海外に羽ばたいていろいろな経験をする中で見えてきたのは、ユイマールの精神や苦しいときにこそカチャーシーを踊るように楽しく物事を乗り越えるウチナーンチュの心の素晴らしさでした。沖縄の人なら誰でも持っているこのスピリッツは、世界の人達と交わることでその大切さに気付くことができ、自分がウチナーンチュであることを実感できたそうです。県外、海外の沖縄県人会やウチナー民間大使の活動が活発なもの、嘉数さんと同じように沖縄が持つパワーやアイデンティティーの大切さを身に染みて感じているからではないでしょうか。「世界のウチナーンチュの日」は、そのことを振り返らせてくれる象徴的な日です。

一昨年の第6回世界のウチナーンチュ大会での制定後、昨年初めて迎えたその日は、南米や北米を中心に世界各国で盛大に祝われ、様々な沖縄に関する取り組みがなされました。沖縄から出たウ



芸能団派遣事業 サンパウロ

チナーンチュ達は、故郷を大切に思いながら、各地でウチナーネットワークを継承・拡充しています。

世界に目を向け、沖縄の歴史や文化、自然をさらに好きになり、ウチナーンチュであることを誇れる日。そんな可能性を秘めた日が「世界のウチナーンチュの日」です。

2. 沖縄県の取り組み

沖縄県においても、世界のウチナーンチュの日を祝う祭典の開催、移民の歴史が学べる舞台公演や海外県人会への芸能団派遣を実施した他、テレビCMやホームページの開設等を通して、世界のウチナーンチュの日の認知度向上を図りました。

世界のウチナーンチュの日 ロゴマーク



中央には地球、その周りを囲むようにウチナーネットワークに関わる人々をイメージ。

問い合わせ 県交流推進課 電話:098-866-2479 FAX:098-866-2960

広告



心のバリアフリー

私たちは、様々な製品、施設やサービスを利用して生活していますが、障害のある人にとってそれらが利用しにくいケースがたくさんあり、日常生活や社会生活において障壁となっています。

この障壁を解消するためには、障害について理解し障害のある人と対話し、障害を理由とする権利侵害が起こらないよう県民一人ひとりが考え、取り組んでいくことが重要です。



心のバリアフリー特別フォーラム (基調講演)

心のバリアフリー特別フォーラム (パネルディスカッション)



県では、障害や障害のある人に対する誤解や偏見を取り除く心のバリアフリーを推進し、障害の有無によって分け隔てることなく、社会の対等な構成員として安心して暮らすことができる共生社会の実現を目指しています。



ココロつながるイベント (トークショー)

手話普及イベント (真和志高校手話部パフォーマンス)



「何かお手伝いすることはありますか?」

障害のある人といっても、一人ひとり状態が違います。例えば、手や足、体幹のどこかが動かない、あるいは動かしにくい肢体不自由のある人、視覚に障害のある人。また、聴覚に障害のある人や内臓に障害のある人、精神障害のある人などは、見た目にはわからないため周囲の人から理解が得られにくいことがあります。

目の前に困っている人がいて、どう対応すればよいか分からないときはその人に何をしたらよいか尋ねてみてください。また、障害があるように見えない人でも、何かに困っていることがあるかもしれません。困っている人に気づき、思いやりの気持ちでサポートすることが共生社会の実現につながっていきます。



「相談できる場所はありますか。」

沖縄県障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会づくり条例及び障害者差別解消法では、障害者に対して、障害を理由とする差別を禁止しています。

障害を理由とする差別を受けた場合などは、お住まいの市町村の障害福祉担当部署で相談を受け付けています。県でも広域相談専門員を配置し、市町村の相談員に対して、技術的助言その他必要な支援を行うとともに、直接寄せられる相談についても、市町村と連携しながら解決を図っています。



県民一人ひとりが心の輪を広げ、互いに支え合い共に暮らしていける社会を創っていきましょう。

問い合わせ 県障害福祉課 電話:098-866-2190 FAX:098-866-6916